

第2次旭川市スポーツ振興計画の評価について

主要課題 1 生涯スポーツの振興

重点取組 (1) 生涯にわたってスポーツに取り組む環境づくり

展開施策 1 スポーツに関する多様な情報の集約と発信

取組事業	成果と課題
H P, SNS等による情報発信	市HPの情報分類を見直し、利用者に必要な情報を選択しやすいよう内容を整理するとともに、SNSで施設オープン状況やスポーツイベント等の情報を発信したほか、自宅でするスポーツ動画等を配信した。今後もHPやSNSの内容改善を図り、迅速かつ効果的な情報発信に努める必要がある。
スポーツネットワークの構築	平成27年度末に市所管施設を包括した情報を市HPに掲載するなど、各種競技団体・イベント等、スポーツに係る様々な情報の集約と市民への情報発信に努めた。今後もHPの掲載元との情報交換等により、相互に事業連携を円滑に行うネットワークづくりを行う必要がある。

展開施策 2 ライフスタイルに応じたスポーツ教室の推進

取組事業	成果と課題
市民スポーツの日の事業	市民スポーツの日事業の連携事業として、民間団体と協働しレク・ポッチャ選手権大会を継続して実施したほか、ニュースポーツ、スケートボード、インドアクライミング、スノーボード等の体験会のほか、市有スポーツ施設及び小中学校体育館の無料開放を実施し、市民のスポーツへのきっかけづくりを行った。今後、より市民ニーズに対応した事業を効果的に実施していく必要がある。
伊ノ沢遊び体験事業	子どもを対象に野外活動の体験会等やコロナ禍に対応したイベントを実施し、多くの市民が参加した。今後も、より多くの市民がスポーツに親しむ機会となる事業を実施していく必要がある。
スポーツ推進委員出前講座派遣	公民館の百寿大学、PTAのレクリエーション活動、認定こども園、町内会、老人クラブ等に講師を派遣した。引き続き参加者が出前講座で知識・技術を習得し、日常の活動に活用する意欲の喚起が必要である。
歩くスキー講習会の開催	リユース事業（無料貸出）や講習会を実施し、市民に定着した。今後も幅広い層の市民の参加を促進することが必要である。

展開施策 3 障がい者スポーツの振興

取組事業	成果と課題
スポーツ大会の障がい者受入れ	ハーフマラソン、バーサーロペット・ジャパン等の大規模大会において、障がい者割引を行ったほかハーフマラソンのファミリーランに車いすでの参加を可能にするなど、参加の裾野を広げるよう努めた。今後も、日常的なスポーツ・運動への取組を推進するための事業創出が必要である。
バリアフリー・ウィンタースポーツ交流事業	障がい者スポーツの普及・振興を図ることを目的に、令和2年度にバイスキー（チェアスキー）及びシットスキーを購入し、スキー授業などに無償で貸出しを行ったほか、指導者講習会や体験会を実施した。今後も継続的な体験会の実施などの機会創出が必要である。
市民スポーツの日事業等	市民スポーツの日事業の連携事業として、民間団体と協働しレク・ポッチャ選手権大会を継続して実施した。今後も民間団体と連携して障がい者スポーツの普及を図る必要がある。
パラスポーツ合宿の誘致	車いすラグビー日本代表（H28・29・30）、パラノルディックスキー次世代育成（R元・2・3）の合宿受入れを行った。今後もパラスポーツ合宿の誘致を進めていく必要がある。

展開施策 4 スポーツボランティア派遣の体制づくり

取組事業	成果と課題
イベント開催時におけるボランティア募集	旭川市スポーツ協会など関係団体を通してボランティアを募集し、学生を含むボランティアの協力を得てスポーツ大会を実施した。ボランティアの募集と市民への周知、参加意識の醸成が必要である。

展開施策 5 スポーツ指導員派遣制度の推進

取組事業	成果と課題
イベント開催時における指導員派遣依頼	イベント開催時に協力団体から指導員の派遣を依頼している。今後、旭川市スポーツ協会を通じて、競技団体とのネットワークの継続に努めながら必要に応じて指導員の確保に努める必要がある。
スポーツ推進委員出前講座講師派遣	公民館の百寿大学、PTAのレクリエーション活動、認定こども園、町内会、老人クラブ等に講師を派遣した。推進委員会と協議しながら、派遣先の拡大など新たな指導員派遣の仕組みづくりが必要である。
旭川市スポーツ協会HPの紹介	市HPで旭川市スポーツ協会リーダーバンクの紹介を行った。今後、制度の活用を推進するためのより効果的な手法を検討する必要がある。

展開施策 6 スポーツ振興に対する顕彰

取組事業	成果と課題
旭川市スポーツ賞の授与	本市のスポーツ振興に功績のあった市民等の表彰を実施した。今後、幅広く市民へ受賞者の功績について周知を行う必要がある。

重点取組 (2) アウトドアスポーツ・ニュースポーツ・レクリエーションの振興

展開施策 1 アウトドアスポーツの普及

取組事業	成果と課題
伊ノ沢遊び体験事業	子どもを対象に野外活動の体験会等やコロナ禍に対応したイベントを実施し、多くの市民が参加した。今後も、より多くの市民がスポーツに親しむ機会となる事業を実施していく必要がある。

展開施策 2 教室の開設によるニュースポーツの普及

取組事業	成果と課題
スポーツ推進委員出前講座講師派遣	公民館の百寿大学、PTAのレクリエーション活動、認定こども園、町内会、老人クラブ等に講師を派遣した。推進委員会と協議しながら、派遣先の拡大など新たな指導員派遣の仕組みづくりが必要である。
市民スポーツの日事業	市民スポーツの日事業の連携事業として、民間団体と協働しレク・ポッチャ選手権大会を継続して実施したほか、ニュースポーツ、スケートボード、インドアクライミング、スノーボード等の体験会のほか、市有スポーツ施設及び小中学校体育館の無料開放を実施し、市民のスポーツへのきっかけづくりを行った。今後、より市民ニーズに対応した事業を効果的に実施していく必要がある。

展開施策 3 レクリエーションの開催の促進

取組事業	成果と課題
スポーツ推進委員会自主事業	スポーツ推進委員会自主事業として、新たにフロアカーリング交流大会や雪あそび・スケートまつりを開催した。今後、委員会の自主事業の充実や子育て、福祉などの他部局で取り組むレクリエーション事業への参画について仕組みづくりが必要である。

重点取組 (3) 競技スポーツの振興

展開施策 1 トップレベルの大会参加に係る競技者・競技団体への支援

取組事業	成果と課題
大会選手派遣費補助金	国際・全国大会へ出場する市民に対し、参加経費の一部補助を継続した。令和3年度からは、スポーツの推進と負担軽減を図るため、1人当たり上限額を8千円から1万円に、補助対象人数上限を20人から30人に拡充した。補助は寄附などによる基金が財源となっており、制度を継続していくために、寄附の増など財源の確保に努める必要がある。
オリ・パラ賞賜金	オリ・パラに参加する市民及び本市出身者に対して、賞賜金を授与した。
アスリート発掘・養成事業	次世代アスリートの発掘や養成を行うため、スポーツ団体等のニーズ調査や講演会、スポーツ適性テスト等を実施した。今後は、本事業の実施結

果を検証し、アスリートとして成長の可能性のある人材について、北海道や国のプロジェクトと連携しながら育成を図るなど、本市から優秀なアスリートが輩出される環境づくりを進める必要がある。

展開施策2 スポーツ大会開催・運営の支援

取組事業	成果と課題
大会開催・運営費補助金	本市で開催する全道・全国規模の大会について、その運営費の一部を補助し、大会の円滑な運営に寄与した。
スポーツ大会開催負担金・補助金	本市で開催する国際・全国規模のスポーツ大会に対し、運営経費の一部を補助するほか、人員・物的支援を行うことで、大会の円滑な運営に寄与している。

展開施策3 トップレベルの大会誘致

取組事業	成果と課題
バーサーロペット・ジャパン開催	組織委員会の構成員として、大会運営費の負担を行うとともに、人的支援を行い大会の円滑な運営に寄与した。大会の魅力向上を図るため、数年間の検討を経て第40回（R2）でのコースの一元化や参加料の見直しを行ったが、新型コロナウイルスの影響により大会が中止となっている。
旭川ハーフマラソン開催	実行委員会の構成員として、大会運営費の負担を行うとともに人的支援を行い、大会の円滑な運営に寄与した。在り方検討委員会やコース企画部会を設立し、参加者の増加を目指し、広報、コース、大会内容の見直しに取り組んだ。今後も大会の魅力向上に向けた検討が必要である。
国際大会の開催	平成27年にFISスノーボード、IPCクロスカントリースキーの世界大会を開催し、世界トップレベルの競技を間近で観戦できたことや、選手と子ども達との交流事業を実施したことなど、冬季スポーツの振興を図ったほか、国際大会の開催が可能なまちであることを広く発信することができた。一方で、国際大会の開催については、地元競技団体の主体的な関わりや、行政との強力な連携を前提としており、財政面や運営体制面などの課題もあることから、各競技団体等と連携し、大会誘致について検討を行う必要がある。
プロスポーツの試合誘致・開催	北海道日本ハムファイターズの公式戦が毎年開催されており、市民が間近でプロスポーツを観戦する機会となった。今後の試合数増加や開催継続確保のため、球団や主催者との連携を深めながら、市全体で開催を盛り上げる取組を進めていく必要がある。本市を拠点とするプロバレーボールチームであるヴォレアス北海道が誕生し、ヴォレアス北海道と本市、旭川市スポーツ協会、北海道バレーボールクラブが、平成30年に協定を結び、市として練習・試合会場の確保や広報などの支援をしている。一方、ヴォレアス北海道は、スポーツをはじめ幅広く地域の活性化に寄与しており、今後も更に連携を深め、市全体でヴォレアス北海道を応援する取組を進めていく必要がある。

展開施策4 体系的な指導体制の促進

取組事業	成果と課題
競技団体の紹介	市HPに掲載している旭川市スポーツ協会HP及び生涯学習サイト「まなびネットあさひかわ」を通じて紹介を行った。今後、競技団体の活動状況を紹介し、市民がその活動に参加できるネットワークづくりを行う必要がある。

展開施策5 スポーツ合宿誘致の推進

取組事業	成果と課題
トップレベルのスポーツ合宿誘致	平成28年度以降、車いすラグビー日本代表、レスリング女子日本チーム、全日本女子柔道、パラノルディックスキー次世代育成の合宿などの受入れを行った。今後も競技力の向上や裾野の拡大のため、関係団体との連携を図りながら、既存施設を有効活用し、トップレベルのスポーツ合宿の誘致を進める必要がある。

全体評価	B	<p>重点取組(1)では、車いすラグビー日本代表などの合宿誘致をはじめ、市民との協働によるレク・ポッチャ選手権等の開催、シットスキー・バイスキーの購入や体験会の開催などにより、障がい者スポーツの推進が進んだ。</p> <p>重点取組(2)では、スポーツ推進委員会の自主事業として、フロアカーリング大会や雪あそび・スケートまつりなど新たな事業を実施した。</p> <p>重点取組(3)では、大会派遣費補助金を拡充したほか、アスリートの発掘を目的とした講習会やスポーツ適正テスト等を実施した。また、レスリング女子日本代表などの合宿誘致を行い、競技力の向上やスポーツへの関心向上、競技の裾野の拡大などにつながった。本市を拠点とするヴォレアス北海道が誕生し、スポーツをはじめ幅広く地域の活性化に寄与している。</p> <p>市民意識調査では、スポーツ実施率が上昇したほか、スポーツや運動を非常に好きと答えた市民の割合が上昇するなど成果が見られた。一方、スポーツや運動に取り組んでいない理由として、時間がないことやスポーツが嫌いという回答が上位となっている。</p> <p>全体としては、～</p>
課題		<p>生涯スポーツの更なる推進に向けて、SNS等を活用した事業の実施状況の周知など、更なる情報発信を図ることが重要である。</p> <p>誰もがスポーツ・運動に気軽に取り組めるよう、多様な市民のニーズに対応した官民連携による新たな事業構築と効果的な周知について、関係団体と連携しながら検討する必要がある。</p> <p>スポーツや健康づくりに関連する事業を行う庁内部局（教育委員会、子育て支援部、福祉保険部、保健所等）や旭川市スポーツ協会、スポーツ推進委員会、各種競技団体、ボランティア等が横断的なネットワークを構築しながら、更なる情報発信や事情の実施等に取り組んでいく必要がある。</p>

A（課題が解決されている）・B（施策の展開が課題解決に向け効果を発揮している）・C（課題解決に向け施策の展開を継続する）・D（展開施策の見直しが必要である）

主要課題2 地域スポーツ活動の拠点整備

重点取組(1) スポーツ施設の整備と活用

展開施策1 効果的な施設管理・運営と施設活用の推進

取組事業	成果と課題
指定管理者による施設の管理運営	多様化する住民ニーズにより効果的、効率的に対応するため、指定管理者による管理運営が行われている。各施設で利用調整を行うことで、個人・団体のスポーツ活動拠点の確保やサービス向上に寄与している。今後も指定管理者と連携しながら、市民の多様なニーズに対応した管理・運営を行う必要がある。
施設利用に係るネットワークづくり	学校施設スポーツ開放事業の利用券を市内スポーツ施設等で販売したほか、市所管パークゴルフ場で利用できる共通の回数券を発行する等、各施設が連携して利用者の利便性に努めている。
予約システムの充実	総合体育館及び大雪アリーナではHARP(公共施設予約システム)を導入し、Webからの施設利用予約を可能とした。今後はネットワークの範囲拡大が必要である。

展開施策2 市民の利便性向上に向けた施設の整備

取組事業	成果と課題
スポーツ施設の整備・改修	スポーツ施設の多くは老朽化しており、利用者の安全を確保するため、平成25年度から、カムイスキーリンクスのゴンドラ・リフトの大規模更新、センターハウスや山頂レストハウスの外部改修、機械設備更新、また、大雪アリーナの得点表示板の改修などを実施した。今後も、必要な整備・改修を計画的に実施し、財源を確保しながら、施設の維持、継続使用に努めていく必要がある。また、新たに、スポーツが可能な多目的ホールを有する末広地域活動センター「あつま〜る」及び緑が丘地域活動センター「グリーンパル」が完成した。
富沢クロスカントリースキーコースの整備	平成26年に障がい者も利用可能な多目的トイレを設置し、平成27年にはコース整備に必要な圧雪車を購入したことで、利用者の利便性の向上、円滑なコース整備に寄与することができた。令和3年から、安全なコース設定のためコースの再整備に着手した。今後、北彩都地域における他のサービスとの連携を更に深める必要がある。
北彩都歩くスキーコース整備	平成24年からJR旭川駅裏の河川敷に北彩都歩くスキーコースを整備し、日常的に市民が歩くスキーに親しむ環境づくりを行った。
新型コロナウイルス感染症対策	新型コロナウイルス感染症対策として、スポーツ施設へのパーティションの設置、空調設備工事などの施設整備、移動式観客席を購入したほか、スポーツ大会等におけるサーマルカメラの貸出や消毒液等の提供を行った。今後も市民が安心・安全にスポーツに取り組むことができる環境整備に取り組む必要がある。

展開施策3 東光スポーツ公園の整備と活用

取組事業	成果と課題
東光スポーツ公園の整備	平成31年に軟式野球場(第三球場)、令和2年に武道館が完成した。基本計画に基づき財源の確保に努めながら施設整備を実施する。

展開施策4 補完的施設等の活用

取組事業	成果と課題
補完的施設の紹介	市所管施設のネットワークづくりの一環として、各所管部局のHPに掲載している施設の利用案内について、平成27年度に市HP上にリンクを掲載した。

展開施策5 学校施設開放の見直し

取組事業	成果と課題
学校施設スポーツ開放事業	幅広い世代の市民が、継続してスポーツ活動に取り組める場として活用されている。今後も複数団体による共同使用の調整等、地域住民主体のスポーツ活動の拠点としてより効果的な活用を進める。

重点取組(2) 総合型地域スポーツクラブの育成・支援

展開施策1 総合型地域スポーツクラブの支援

取組事業	成果と課題
スポーツ推進委員会による設立支援	旭川市スポーツ推進委員会の総合型部会が設立希望団体に対し、手続、運営等の助言、支援を行った。

展開施策2 総合型地域スポーツクラブの主体的な設立・運営の支援

取組事業	成果と課題
総合型ネットワークの設立	市内4団体に当麻1団体が加わった5団体で上川ネットが設立され、相互連携を図りながら、活動の充実やクラブの発展・維持に努めた。
総合型地域スポーツクラブ設立の支援	北海道スポーツ協会と連携しながら、クラブ設立に関する支援を行った。今後、新たに設立するクラブへの支援を行い、クラブ数の増加を目指していくとともに、日本スポーツ振興センター(JSC)の助成金等の手続を円滑に進める必要がある。

展開施策3 総合型地域スポーツクラブの運営に係る支援

取組事業	成果と課題
北海道スポーツ協会との連携	北海道スポーツ協会と連携しながら、クラブ運営や助成金申請に関する支援を行った。

重点取組(3) スポーツ団体の活動の促進

展開施策1 スポーツ団体への参加の促進

取組事業	成果と課題
HPによる団体の紹介	市HPでリンクする旭川市スポーツ協会のHP及び生涯学習サイト「まなびネットあさひかわ」を通じて紹介を行っている。今後も、競技団体の活動状況を紹介し、市民がその活動に参加できるネットワークづくりが必要である。

展開施策2 スポーツ団体の活動の促進

取組事業	成果と課題
スポーツ大会等への支援	各スポーツ団体が大会や教室等で市所管施設を利用するに当たり、名義後援などの必要な支援を行い、団体の活動推進を図った。
大会開催・運営費補助金	本市で開催する全道・全国規模の大会について、その運営費の一部を補助し、大会の円滑な運営を支援した。

全体評価	B 重点取組(1)では、地域におけるスポーツ活動の拠点施設について、東光スポーツ公園をはじめ、末広や緑が丘地域に新たにスポーツが実施可能な施設を整備したほか、老朽化した施設の改修を進めた。また、市民の施設利用に当たっては、予約システムの導入や施設間の共通利用券を発行し、各種競技団体等との施設利用の調整を行うなど、利便性の向上を図っている。 重点取組(2)では、北海道スポーツ協会と連携し総合型地域スポーツクラブの設立を支援したほか、既存の総合型地域スポーツクラブやスポーツ団体に対し活動・運営の側面的支援を行い、各地域において市民がスポーツに取り組んだ。 重点取組(3)では、名義後援や大会開催・運営費補助金等を継続し、スポーツ団体の活動を促進した。 市民意識調査では～ 全体としては～
課題	スポーツ活動の拠点施設については、市民が安全にスポーツに取り組むことができるよう、引き続き老朽化や市民ニーズなどを踏まえ施設の整備・改修を進めるほか、コロナ禍に対応した感染症対策を行う必要がある。また、施設利用に関する効果的な情報発信や利用調整の拡大などにより、更なる利用促進を図ることが必要である。さらに、市民ニーズや各スポーツ団体の状況を把握しながら、スポーツ団体によるスポーツ施設の管理など、効果的・効率的な施設運営の在り方についての検討が必要である。

A(課題が解決されている)・B(施策の展開が課題解決に向け効果を発揮している)・C(課題解決に向け施策の展開を継続する)・D(展開施策の見直しが必要である)。

主要課題3 子どものスポーツ振興

重点取組(1) 子どものスポーツへの意欲の喚起

展開施策1 外部指導員活用の検討

取組事業	成果と課題
旭川市スポーツ協会HPの紹介	市HPで旭川市スポーツ協会リーダーバンクの紹介を行った。今後、制度の活用を推進するためのより効果的な手法を検討する必要がある。

展開施策2 地域におけるスポーツ活動の推進

取組事業	成果と課題
市民スポーツの日の事業	市民スポーツの日事業の連携事業として、民間団体と協働しレク・ポッチャ選手権大会を継続して実施したほか、ニュースポーツ、スケートボード、インドクライミング、スノーボード等の体験会のほか、市有スポーツ施設及び小中学校体育館の無料開放を実施し、市民のスポーツへのきっかけづくりを行った。今後、より市民ニーズに対応した事業を効果的に実施していく必要がある。
スポーツ推進委員出前講座の講師派遣	P.T.Aのレクリエーション活動、認定こども園、町内会等に講師を派遣し、地域における子どものスポーツ活動を推進した。子どもの運動機会の向上のため、新たにちびっこZoo体操を制作した。今後も、推進委員会と連携しながら、子ども達のスポーツ活動への派遣を拡大する必要がある。
ヤマザキ・旭川ガス杯道北地域少年サッカー大会	道北地区の少年サッカーのレベル向上、サッカー少年達の交流を図ることを目的として、地区サッカー協会と協力しながら開催しており、毎年約700名の少年団員が参加している。地元企業の協力を得ながら、定着が図られており今後も継続していく必要がある。
バリアフリー・ウィンタースポーツ交流事業	障がい者スポーツの普及・振興を図ることを目的に、令和2年度にバイスキー(チェアスキー)及びシットスキーを購入し、スキー授業などに無償で貸出しを行ったほか、指導者講習会や体験会を実施した。今後も継続的な体験会の実施などの機会創出が必要である。

展開施策3 地域資源の紹介と活用の促進

取組事業	成果と課題
伊ノ沢遊び体験事業	子どもを対象に野外活動の体験会等やコロナ禍に対応したイベントを実施し、多くの市民が参加した。今後も、より多くの市民がスポーツに親しむ機会となる事業を実施していく必要がある。

重点取組(2) 子どものスポーツに取り組む環境づくり

展開施策1 スポーツ少年団活動の促進

取組事業	成果と課題
大会派遣費補助金	国際・全国大会へ出場する市民に対し、参加経費の一部補助を継続した。令和3年度からは、スポーツの推進と負担軽減を図るため、1人当たり上限額を8千円から1万円に、補助対象人数上限を20人から30人に拡充した。補助は寄附などによる基金が財源となっているため、制度を継続していくために、寄附の増など財源の確保に努める必要がある。
競技団体の紹介	市HPに掲載している旭川市スポーツ協会HP及び生涯学習サイト「まなびネットあさひかわ」を通じて紹介を行った。今後、競技団体の活動状況を紹介します。市民がその活動に参加できるネットワークづくりを行う必要がある。

展開施策2 学校運動部活動の促進

取組事業	成果と課題
旭川市スポーツ協会HPの紹介	市HPで旭川市スポーツ協会リーダーバンクの紹介を行った。今後、制度の活用を推進するためのより効果的な手法を検討する必要がある。

展開施策3 活動拠点としての総合型地域スポーツクラブの活用

取組事業	成果と課題
クラブ活動の周知	市HPにおいて総合型地域スポーツクラブの紹介を行った(R3実施予定)。今後は、クラブを活用した地域スポーツの活動を促進するため、クラブの活動状況の情報発信と周知徹底を各クラブや関係機関と連携しながら行っていく必要がある。

全体評価	<p>重点取組(1)では、子どもの運動機会の向上のため、スポーツ推進委員会考案のAsahikawaZoo体操に加え、ちびっこZoo体操を新たに制作したほか、バイスキー(チェアスキー)及びシットスキーを購入し、スキー授業などへの無償貸出しや体験会を実施した。</p> <p>重点取組(2)では、スポーツの推進と全国大会等へ出場する市民への負担軽減を図るため、大会派遣費補助金を拡充した。</p> <p>市民意識調査の結果では、スポーツ活動を行っている子どもの比率は小・中学生、高校生ともに、前回は上回っており、各施策の展開により子どものスポーツ振興に一定の成果が見られる。</p> <p>なお、スポーツ活動を通じて楽しく健康づくりができる場があれば参加したいと答えた子どもの数が増えており、潜在的な意欲を持ちながらも、スポーツに取り組んでいない小学生の割合は6割以上、中学生は約4割、高校生は約5割となっている。</p> <p>全体としては～</p>
課題	<p>子ども達が幼児期から運動習慣を身に付け、意欲的にスポーツや運動に取り組めるよう、総合型地域スポーツクラブをはじめ、各競技団体への側面的支援や、学校とスポーツ少年団や総合型地域スポーツクラブなど地域との連携を促進し、多様なニーズに対応した環境を整備するとともに、それらに関する情報発信や利用促進が必要である。</p> <p>「全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果」では、全国に比べて本市の子どもは～など、子どものスポーツ活動の頻度向上などが課題である。</p>

A (課題が解決されている) ・ B (施策の展開が課題解決に向け効果を発揮している) ・ C (課題解決に向け施策の展開を継続する) ・ D (展開施策の見直しが必要である)

主要課題 4 冬季スポーツの振興

重点取組 (1) 冬季スポーツの推進

展開施策 1 冬季スポーツ取組の機会の提供

取組事業	成果と課題
スキーリユース事業	市民が使わなくなった歩くスキーを回収し、1シーズン無料で貸し出す事業を実施しており、市民の冬季スポーツの機会創出及び促進が図られた。
バーサーロペット・ジャパン開催	第32回大会から北彩都コースを設置し、初心者でも気軽に参加できるコース設定を取り入れたことで、参加者の増加につながった。今後も参加者の増加を目指し内容の見直しを行うとともに、スキーリユース事業、歩くスキー講習会、北彩都歩くスキーコースの開設等、関連する事業と連携しながら、歩くスキーの普及を推進する必要がある。また、大会参加者の増加を図るため、第40回(R2)でのコースの一元化や参加料の見直しを行ったが、新型コロナウイルスの影響による大会中止のため効果の検証には至っていない。引き続き、大会の魅力向上などについて企画検討委員会を中心に検討を行う。
市民スポーツの日(冬季)	市民スポーツの日事業の連携事業として、民間団体と協働しレク・ポッチャ選手権大会を継続して実施したほか、スノーシュー、スノーボードなどの屋外スポーツのほか、ニュースポーツなど冬季に屋内でも取り組めるスポーツ・運動の体験会のほか、市有スポーツ施設及び小中学校体育館の無料開放を実施し、市民のスポーツへのきっかけづくりを行った。今後、より市民ニーズに対応した事業を効果的に実施していく必要がある。
バリアフリー・ウィンタースポーツ交流事業	障がい者スポーツの普及・振興を図ることを目的に、令和2年度にバイスキー(チェアスキー)及びシットスキーを購入し、スキー授業などに無償で貸出しを行ったほか、指導者講習会や体験会を実施した。今後も継続的な体験会の実施などの機会創出が必要である。

展開施策 2 子どもへの冬季スポーツ取組の機会の提供

取組事業	成果と課題指標
市民スポーツの日(冬季)	市民スポーツの日事業の連携事業として、民間団体と協働しレク・ポッチャ選手権大会を継続して実施したほか、スノーシュー、スノーボードなどの屋外スポーツのほか、ニュースポーツなど冬季に屋内でも取り組めるスポーツ・運動の体験会のほか、市有スポーツ施設及び小中学校体育館の無料開放を実施し、市民のスポーツへのきっかけづくりを行った。今後、より市民ニーズに対応した事業を効果的に実施していく必要がある。
バーサーロペット・ジャパン開催	第32回大会から北彩都コースを設置し、初心者でも気軽に参加できるコース設定を取り入れたことで、参加者の増加につながった。今後も参加者の増加を目指し内容の見直しを行うとともに、スキーリユース事業、歩くスキー講習会、北彩都歩くスキーコースの開設等、関連する事業と連携しながら、歩くスキーの普及を推進する必要がある。
雪あそび・スケートまつり	スポーツ推進委員会と、旭川市スケート連盟との共催により、雪あそびスケート体験会等を実施し、冬季スポーツに取り組む機会を提供した。
伊ノ沢遊び体験	子どもを対象に野外活動の体験会等やコロナ禍に対応したイベントを実施し、多くの市民が参加した。今後も、より多くの市民がスポーツに親しむ機会となる事業を実施していく必要がある。

展開施策 3 バーサーロペット・ジャパンの見直し及び冬季スポーツ大会の充実

取組事業	成果と課題
バーサーロペット・ジャパンの見直し	組織委員会の構成員として、大会運営費の負担を行うとともに、人的支援を行い大会の円滑な運営に寄与した。大会の魅力向上を図るため、数年間の検討を経て第40回(R2)でのコースの一元化や参加料の見直しを行ったが、新型コロナウイルスの影響により大会が中止となっている。
冬季スポーツ大会の開催	平成27年にFISスノーボード、IPCクロスカントリースキーの世界選手権大会を開催し、世界トップレベルの競技を間近で観戦できたことや、選手と子ども達との交流事業を実施したことなど、冬季スポーツの振興に貢献できたほか、国際大会の開催が可能なまちであることを広く発信することができた。一方で、国際大会の開催については、地元競技団体の主体的な関わりや、行政との強力な連携を前提としており、財政面や運営体制面などの課題もあることから、各競技団体等と連携し、大会誘致について検討を行う必要がある。

重点取組 (2) 冬季スポーツに取り組む環境づくり

展開施策 1 冬季スポーツ施設の整備

取組事業	成果と課題
歩くスキーコースの整備	平成24年からJR旭川駅裏の河川敷に北彩都歩くスキーコースを整備し、日常的に市民が歩くスキーに親しむ環境づくりを行った。
施設整備(富沢トイレ・圧雪車購入)	平成26年に障がい者も利用可能な多目的トイレを設置し、平成27年にはコース整備に必要な圧雪車を購入したことで、利用者の利便性の向上、円滑なコース整備に寄与することができた。令和3年度から、安全なコース設定のためコースの再整備に着手した。今後、北彩都地域における他のサービスとの連携を更に深める必要がある。

展開施策 2 効率的な施設利用の推進

取組事業	成果と課題
指定管理者による施設の管理運営	所管施設の管理運営は、指定管理者に委託している。各施設で利用調整を行うことで、個人・団体のスポーツ活動拠点の確保が図られている。今後も指定管理者と連携しながら、市民の多様なニーズに対応した管理・運営を行う。

全体評価	<p>重点取組(1)では、バーサーロペット・ジャパンについて、大会の魅力向上のため、中心市街地である北彩都地区に会場を一元化するなどの見直しを行った。また、バイスキー・シットスキーを購入し、指導者講習会及び体験会を開催したほか、スポーツ推進委員会による雪あそび・スケートまつりを新たに開催するなど、冬季スポーツの機会創出に取り組んだ。</p> <p>重点取組(2)では、富沢クロスカントリースキーコースにおいて、多目的トイレの設置や圧雪車の購入、安全性の向上のため、コースの再整備を行っている。</p> <p>市民意識調査では、冬季のスポーツ実施率は、夏季の●●%に比べ●ポイント低い、●%となっている。</p> <p>全体としては、冬季スポーツの振興に向け、歩くスキーリユース事業や市民スポーツの日、伊ノ沢遊び体験等の事業を実施するとともに、バーサーロペット・ジャパンをはじめ、FISスノーボードワールドカップやIPCクロスカントリースキーワールドカップなどの大規模スポーツ大会を開催し、市民の冬季スポーツへの関心の向上等に取り組んだ。</p>
課題	<p>冬季スポーツへの市民の関心を更に高めるため、事業内容の更なる改善に努めるとともに、事業に関する情報の効果的な発信や事業への参加促進を図るほか、計画的な施設整備を進めるなど、冬季スポーツ環境の充実が必要である。</p>

A (課題が解決されている) ・ B (施策の展開が課題解決に向け効果を発揮している) ・ C (課題解決に向け施策の展開を継続する) ・ D (展開施策の見直しが必要である)

